

単独病床機能再編計画

1. 医療機関の概要

医療機関名		岩美町国民健康保険岩美病院					
開設者		岩美町長 長戸 清					
所在地		鳥取県岩美郡岩美町大字浦富1029番地2					
構想区域		東部構想区域					
許可病床数		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計
			60		50		110
稼働病床数		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計
			60		50		110
1日あたり患者数(稼働率)		入院患者数:29.8人／日、外来患者数:213.8人／日					
診察科目		内科、外科、整形外科、小児科、小児外科、眼科、皮膚科、精神科、心療内科、耳鼻いんこう科、放射線科、リハビリテーション科、循環器内科、泌尿器科、脳神経内科、歯科、歯科口腔外科					
職員数合計		170人					
職種別職員数	医師	10人					
	看護師	95人					
	技術職	40人					
	事務	25人					

2. 病床の変遷

区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	対象3区分※ 合計
平成30年度 病床機能報告	許可病床数		60		50		110	110
	稼働病床数		60		50		110	110
平成31年度 病床機能報告	許可病床数		60		50		110	110
	稼働病床数		60		48		108	108
令和2年年度 病床機能報告	許可病床数		60		50		110	110
	稼働病床数		60		48		108	108
令和3年年度 病床機能報告	許可病床数		60		50		110	110
	稼働病床数		60		50		110	110
令和4年年度 病床機能報告	許可病床数		60		50		110	110
	稼働病床数		51		48		99	99
令和5年4月1日時点	許可病床数		60		50		110	110
	稼働病床数						0	0
令和6年4月1日時点 (計画完了時)	許可病床数		53		46		99	99
	稼働病床数						0	0

※対象3区分＝高度急性期、急性期、慢性期

3. 構想区域の状況 ※区域の現状や課題、医療機関の圏域における役割等を記入してください。

東部圏域の医療構想では、高度急性期、急性期の病床は充足しているが、回復期、慢性期の病床は不足しています。このため高度急性期や急性期の病床を回復期や慢性期病床或いは介護施設や在宅療養を支える体制への転換が求められています。

当院は救急告示病院として一次、三次救急医療機関や消防署と連携し二次救急医療を担っています。また、急性期から回復期、慢性期までの受け入れを行うとともに、関係機関と連携し地域包括ケアシステムの中心的な役割を果たしています。当院の病床機能としては、「急性期60床」うち「地域包括ケア20床」、「慢性期50床」うち「介護療養病床13床」の計110床です。

また、訪問診療・看護、通所リハビリや訪問リハビリなどの在宅医療にも対応しています。

4. 病床再編の内容 ※できるだけ具体的に記入してください。

・再編時期

令和6年4月1日

・再編の内容

現在の一般病床60床のうちの急性期一般病床40床を7床削減し33床とし、療養病床50床のうち介護療養病床13床を廃止し、医療療養病床37床を9床増床し46床とする。

一般病床 60床⇒53床(うち地域包括ケア病床20床)

療養病床 50床⇒46床

(内訳)医療療養病床 37床⇒46床

介護療養病床 13床⇒0床

・再編の理由(病床の削減が地域医療構想に即すると考えられる理由)

少子高齢化と人口減少が急速に進展するなか、後期高齢者の割合も増加し医療と介護の需要も見込まれるなか、当院は医療、保健、福祉の連携を図り地域包括ケアシステムの中心的な役割を果たす必要がある。

また、高度急性期を担う病院と連携を強化し、回復期・慢性期の患者を積極的に受け入れてくため、介護療養病床を医療療養病床へ転換していく。また、東部圏域で充足している急性期病床は若干の削減とする。

当院としては全体の病床数は削減となるが、東部圏域の地域医療構想に沿った病床確保となっていると考える。

・再編する病床の現在の運用

一般病床 60床(うち地域包括ケア病床20床)

療養病床 50床

(内訳)医療療養病床 37床

介護療養病床 13床

・再編後の病床の運用および診療体制

一般病床 53床(うち地域包括ケア病床20床)

療養病床 46床

(内訳)医療療養病床 46床

介護療養病床 0床

診療体制 現行から変更することはない